

「著名的無名人」を訪ねて

text by
Nagano Yoshinobu

連載 第一 200 回

世の中をリードする名人技を秘めた達人たち(その30)

蒲島農業と坂上農業

熊本県知事、蒲島郁夫66歳と、鹿児島県志布志市の農業生産法人「有限会社さかうえ」の坂上隆44歳をそのまま比較し論じようというのではない。年齢が約20歳違い、育った環境も違う。仕事も地方政治行政のトップと、これから伸びようとする農業再生事業に尽力する青年社長というように全く似ていない。性格も、かなり違うよう

だ。しかし、共通点が二つある。農家の出身であるということ。そして、2人ともヒトと自然を愛し「期待値を越えた」目標実現に邁進していることだ。第一の農家出身という点についてだが、蒲島郁夫はすでに紹介したとおり熊本県鹿本郡稲田村(現・山鹿市)の、それぞれ二反歩を耕す小作人の8番目の息子として生まれた。負しい農家の厳しい生活が身に染み付い

ている。一方、ここで初めて紹介する坂上隆は、鹿児島県大隅半島の中部に位置する、志布志市の面積1.5倍を耕す専業農家の長男として生まれた。日本がようやく高度成長期に向かい始めた頃から、蒲島の青年期より環境が良くなっており、同じ農家といえども生活に余裕があったことだろう。しかし彼も、農家の生活の苦しさを感しながら育ったことは間違いない。

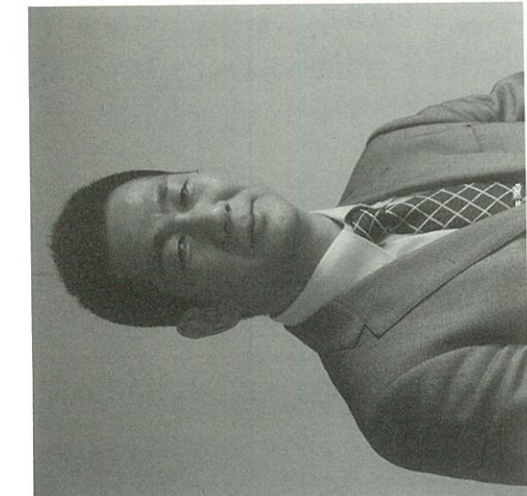
ところが、苦しいことはあっても2人とも「農業」というものの大切さ、すなわち人間が生きるための、その《土地》に結び付いた原点から逃げようとはせず、むしろどうしたら良い農業をモノに出来るかを真剣に追求したことである。蒲島郁夫は、自伝でも述べているように、高校時代、通学路の途中にある小高い丘の上の麦畑に寝転び、日がな本を読み、遠く阿蘇山の噴煙を眺めては、

将来の夢を巡らせていた。将来は阿蘇の大平原で大牧場を経営したい。卒業して農協に就職した彼が、遂にチャンス掴み、21歳の時に、農業研修生としてアメリカに渡る。2年あまりの農業研修から帰国した彼は、「大学でもっと勉強したい」との強い気持ちから、遂にネブラスカ大学農学部に入学するため再渡米した。日本の約24倍もあるアメリカ合衆国、そのちょうど中心に位置するような標高約1500mの高原の広大な台地、ネブラスカ州リンカーン

で、アメリカ式繁殖生理学を身に付けた。一方坂上隆も、大隅半島の広大な牧草と畑の中で高校に通いながら、時に少し遠出すれば目に入る、錦江湾に浮かぶ桜島を眺めて夢を膨らませた。常に噴煙が上がり、時に噴火する力強い山の姿が、彼の勇気を引き起こした。大隅半島の土地は、窒素分の多い火山灰で出来た土地である。だから、典型的な過疎地帯となり農業も育たない。多少活気があるのは漁業だけ。他の産

業が外から入って来ることもない。「だが、俺は何としてもここで農業を成功させたい」と心に決めた。偶々剣道の達人の良い先生が高校にいた。負しかったが、親の許しを得て東京の武道大学の門をくぐった。熱心に武士道とは何かを勉強し、武道の修練をする中で、次第に如何にして人間は自然を愛さなければ生きていけないか、人間の魂は自然に帰るといふ武士道の奥義を体得する。剣道7段、しかし8段の錬士である大学の恩師には、今でも勝てないという。その坂上が、家業の農業を継ぐことを決心したのが、蒲島郁夫が単身再渡米した年齢と同じ24歳。アルバイトをしながら、父親から改めて農業という事業の技能すなわち、エンジニアリングのノウハウを真剣に学ぶ毎日が続いた。

こうして、困苦15年で漸く坂上の農業哲学が出来上がり、インターネットを通してそれを宣言した。そこに、農地法改正という追い風が吹く。日本の農業再生のため、放棄農地の借り上げが出来た農業生産法人が誕生した。後に詳しく触れるが、帝国



坂上隆 さかうえ社長

困苦15年、坂上農業哲学の誕生

後に詳しく触れるが、帝国

データーバンクの公表する基本的な資料によると、坂上隆の「さかうえ」は、2012年の売上高が2億7000万円、売上利益6000万円である。作付面積は、自作・委託合わせて1500haである。2002年の「さかうえ」のホームページでは、従業員が30人だったが、本年1月下旬私が志布志の本社を訪ね親しく面談した際は43人で、新卒採用も5年目を迎えたと言っていた。その後の情報では、従業員が49人に増えているという。安倍政権が誕生して、本格的な農業再生への追い風が吹き始めたので、坂上は一層忙しい。嬉しい悲鳴を挙げている。熊本県知事蒲島郁夫の夢は、「熊本県を日本で一番幸せを実感できる県にすること」だと明言している。そのための哲学は、「県民の総幸福量の最大化を唯一の判断基準とした原政」ということだと述べている。最近では水俣病訴訟の控訴取り下げの英断が光る。



永野 芳宣

ながの・よしおのぶ
1951年生まれ東京電力(株)理事企画部長兼夜特別顧問
政策科学研究所副理事長九州電力(株)チーフアドバイザー
を歴任。現在チーフ特別顧問(株)正興電機製作所経営副委員立
山科学センター顧問九州電力(株)顧問シフト(株)顧問下り研究企画部
部長など。
「外伝に抗した男(角川書店)」「呪い(河出書院)」「中央公論社」日
本型スタート経営「タイキヤド社」「西徳経管」(中央公論新社)
「日本の著名的無名人」(上)「世界研究所」(物産)「サイエンス」(上)
(中央公論新社)「株式会社(株)日本を愛する」(産経新聞出版)「蒲島
郁夫の夢」(世界研究所)「目指せ日本だ」(3)「山(文)にのびる」(同
上)「クリ」(上)「国家の戦時体制」(同上)「著者」(脱原発)日本
国家の危機(同上)「送電分離は日本国家の危機」(同上)は
が論文多数